

高知のグロリオサ、出番をまつ新しい花たち



3. 胚培養による種間雑種



1. 導入系統の自殖後代
上；オレンジ色、下；濃赤色



2. 選抜系統間の交雑後代
上；花弁大、下；ピンク色



4. 突然変異系統

グロリオサは高知の花き園芸を代表する花です。さらに魅力ある多彩な商品を生産してゆくため、遺伝資源を収集し、選抜育種や交配育種に取り組んでいます。

1. 導入系統の自殖後代：アフリカから導入された系統を自殖した後代からは、オレンジ色や濃赤色の花弁をもつ系統が選抜されています。

2. 選抜系統間の交雑後代：高知市三里から導入したピンク系と国の内外から収集した濃赤系とのF₁集団からは、鮮紅色で花弁が大きい系統や、鮮ピンクの系統などを選抜しています。

3. 胚培養による種間雑種：グロリオサの種間雑種は容易でなく、わずかの個体がえられているのみです。ルテア×スペルバからは明橙色の花弁をもつ系統が出現しました。

4. 突然変異系統：自殖あるいは交配種子にガンマー線やイオンビームなどの放射線をあてる突然変異育種を試みっていますが、有効な変異は誘発されていません。

これらのうち、2、3の有望系統は栽培特性調査を進め、塊茎の増殖中です。

(育種バイオテクノロジー科

松本満夫 088-863-4916)